



「デネブ高等学校の生徒情報管理システム (Cyg System)」について

デネブ高等学校
教諭 山本 浩司

1. 本校の情報管理の重要性

本校は、単位制・通信制の高等学校である。普通科と総合学科を設置し、前・後期の2期制で無学年制をとっている。入学式と卒業式は年2回ずつあり、生徒に関するデータ量は必然的に多くなる。

運用面においては、卒業条件である

- ①3年以上の高等学校在籍
- ②74単位以上の教科・科目の単位修得

③30時間以上の特別活動出席

が基本となる。生徒は、自由に学習プランを立て、每期履修登録を行う。10人いれば、10人が異なる時間割に従って学習をすすめる。個々のスクーリングの学習状況、試験・成績、単位修得状況のデータを逐次更新し、提示する為の処理は、非常に複雑なものとなっている。

本校では、開校当初よりシステムの開発と改善に取り組んできた。少人数の教職員でいかに迅速かつ正確に複雑なデータを処理し、生徒をサポートする情報へとつなげるかが常に課題であった。

2. 本校で取り扱う生徒データ

(1)基本データ

本校で取り扱う基本データは、受験段階で発生するデータとして、名前・生年月日・性別・住所・電話番号・電子メールアドレス・出身中学校・高校履歴・就職履歴・保護者データなどがある。

また、入学後に発生するデータとしては、生徒番号・学科・コース・クラス・学籍・既修得状況・今期履修状況などがある。

(2)面接指導(スクーリング)・添削指導(レポート添削)データ

各科目毎にスクーリング時間とレポート添削の回数が決まっている。每期新規に履修登録した科目のデータと、一つ前の期に履修登録し単位未修得の科目(履修権利は二期)の継続科目としての継承データがある。

それぞれのデータは、生徒がスクーリングに出席した時や、レポート提出時に随時更新される。

(3)成績データ

5段階評価にて年に2回、単位認定を行っている。高校履歴のある生徒は、以前の高校での成績と本校での成績を統合して管理する必要がある。

(4)特別活動及びその他のデータ

年間12回以上の行事を行っており、各行事の出席時間をカウントする。生徒は、希望により参加・不参加を決定するが、卒業までに30時間以上出席する必要がある。また、ショート・ホームルームも4回出席すると1時間の特別活動としてカウントしている。これらのデータは、イレギュラーに発生するため、そのつど処理をしなければならない。

その他、資格や検定の取得データ、進路に関するデータなどがある。

3. 生徒情報のデータベース化

全てのデータを一括管理するためシステム化・データベース化が必要となる。

本校では、『生徒情報管理システム (Cyg System)』という名称で、シ

ステム開発・運用室の担当者が管理し、全教職員で運用している。

4. 面接指導(スクーリング)・添削指導(レポート添削)に関するデータの流れ

各教科・科目によって面接指導の時間数と添削指導の枚数が決まっている。この二つを期日までに満たすと、期末の試験を受けることができ、合格点を取れば単位修得となる。

(1)スクーリングデータの流れ

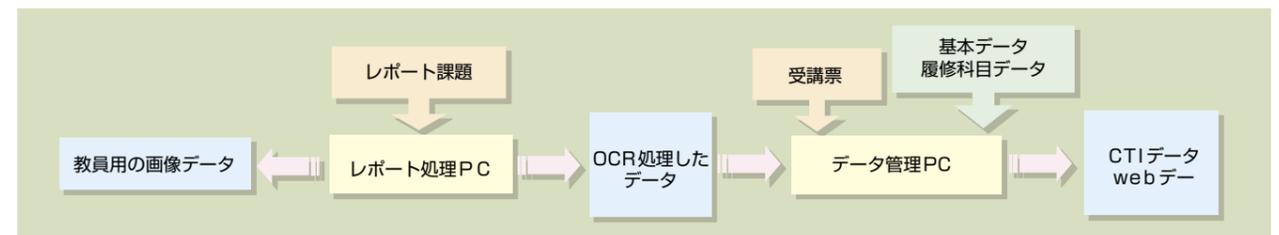
データの入力ミス防止と効率化を図るため、生徒番号をバーコード化し、生徒名・クラスとともに印刷したシール(バーコードシール)を每期配付している。

生徒はスクーリング時に、受講票にバーコードシールを貼り教員に提出する。スクーリング後に教員は、データ処理専用パソコンにバーコードリーダーで入力する。このデータは、各教員のパソコンでいつでも確認することができる。



(2)レポート添削データの流れ

生徒は、レポート課題にバーコードシールを貼って提出する。提出されたレポート課題や添削済みのレポート課題は、複合機でスキャンし、画像データとする。画像データは、OCR(文字認識)ソフトによって、生徒番号・科目などのデータを読み取る。事務担当者がデータ化したレポート課題を画面でみながら、認識データ



を確認しデータエラーのチェックをしている。この画像データは、各教職員のパソコンから閲覧することができる。これにより、添削レポートの詳細な分析が可能となり継続的な学習指導を行う上で大いに役立っている。レポートは、再提出の場合もある。中には4~5回の再提出があり、その都度、データ処理を行わなければならない、合格レポート枚数の22%増しのデータ処理を行っている。

5. webを活用した学習歴情報の提供

面接指導と添削指導のデータは、毎日更新されている。この情報は、随時各教員のパソコンから確認できる。

さらに、生徒や保護者はインターネットのホームページ上で、現在の学習状況をいつでも確認することができる。校内には生徒用として学習状況確認用のパソコンを10台以上設置している。このシステムは、生徒・保護者にとっても高評を得ている。

6. CTIシステム

CTI(Computer Telephony Integration)システムにより、必要な生徒情報を瞬時に画面表示できる。通信制高校は、その性質上、直接、生徒とのコミュニケーションを図る機会が少なく、電話を使うことが多い。CTIによって、ワンクリックで電話をかけることができ、かかってきた電話の番号からは、すぐにデータ検索ができる。必要な情報はメモとして書き込むこともでき、得た情報の共有に効果を上げている。

7. Cygシステムの運用と効果

昨年までの本校のCTIは、電話やFAXをコンピュータシステムに統合し、生徒の基本データを連動させただけのものではあった。本年度は、生徒や保護者に対してよりの確かなサポートをすべく、CTIとCyg systemの連動をいっそう強めるよう改善をした。

生徒や保護者と会話している間に、生徒の環境、履修歴、学習歴、現在の学習状況、特別活動などのデータを速く、正確に取り出し、タイムリーに情報提供することができるようになった。これにより、生徒個々の学習状況の把握と指導が、迅速によりの確に行われるようになった。

